

令和2年度生徒指導集中対策指定校,  
生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

## 「指定校における取組事例」

令和3年3月  
広島県教育委員会



## はじめに

令和2年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大という危機に直面し、令和2年3月からは、全国で臨時休業措置が取られ、長期にわたり、子どもたちが学校に通えないという事態が生じました。この前例のない状況の中で、子どもたちの学習機会の保障や心のケアなどに力を尽くしていただき、学校再開後においても引き続き、御尽力いただいているところです。

これまで当たり前のように存在していた学校に通えない状況が続いたことで、子どもたちや各家庭において学校がどれだけ大きな存在であったのかということが改めて浮き彫りになりました。

このような状況の中、令和2年度生徒指導集中対策指定校、生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校においては、学校が児童生徒にとって安心できる居場所となることを目指し、「生徒指導に係る連携体制の確立」、「カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話」、「主体的な活動を通じた絆づくり」を取組の柱として、チーム学校としての教職員及びスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等のつながり及び教職員と保護者、地域、関係機関等とのつながり、教職員と児童生徒とのつながり、児童生徒同士とのつながりを構築する取組を進めております。

本事例集では、各指定校の様々な取組事例が紹介されております。各学校におかれまして、本資料が取組の参考となり、児童生徒の居場所づくり、絆づくりの一層の充実に役立てていただくことを願っております。

令和3年3月

豊かな心と身体育成課

## 目 次

はじめに	1		
目 次	2		
<b>1 生徒指導集中対策指定校</b>			
<b>(1) 小学校</b>		<b>(2) 中学校</b>	
○ 海田町立海田東小学校 「東っ子 ここからチャレンジ」	3	○ 福山市立幸千中学校 「KOSEN CHANGE PROJECT!」	23
		○ 福山市立培遠中学校 「アンケート等にもとづいた個々の生徒に寄り添う指導」	24
<b>(2) 中学校</b>		○ 竹原市立竹原中学校 「立腰－重点指導項目の設定－」	25
○ 東広島市立黒瀬中学校 「クロリンピック」	4	○ 大竹市立大竹中学校 「生徒指導対策委員会」	26
○ 廿日市市立廿日市中学校 「文化活動発表会」	5	○ 東広島市立向陽中学校 「チーム向陽～絆～」	27
○ 廿日市市立大野東中学校 「生徒が抱える課題に応じた段階的支援の充実」	6	○ 熊野町立熊野中学校 「伝統を守り、創造する」	28
○ 海田町立海田中学校 「文化祭～海中の森の製作を通して～」	7	○ 安芸高田市立吉田中学校 「体育祭 全員参加による『応援ダンス』の取組」	29
○ 熊野町立熊野東中学校 「生徒指導の三機能を活かした生徒会活動の在り方」	8	○ 尾道市立向東中学校 「レジリエンス（心の回復力）の育成」	30
○ 三原市立第三中学校 「三中チャレンジカップ」	9	○ 三次市立三次中学校 「きらり三次中」	31
○ 尾道市立栗原中学校 「主体性と規範意識の育成」	10	○ 三次市立十日市中学校 「学び方を学び、自分の学び方のヒントを見つけよう」	32
○ 尾道市立高西中学校 「TAKANISHI 志プロジェクト」	11		
<b>2 生徒指導実践指定校</b>		<b>(3) 義務教育学校</b>	
<b>(1) 小学校</b>		○ 府中市立府中学園 「心を密にする掲示板」	33
○ 大竹市立大竹小学校 「あいさつ名人」	12	<b>3 不登校等未然防止推進校</b>	
○ 廿日市市立廿日市小学校 「気持ちのよいあいさつを広げよう」	13	<b>(1) 小学校</b>	
○ 府中町立府中北小学校 「学級力アンケート（スマイルミーティング）」	14	○ 廿日市市立大野東小学校 「適応指導教室の体制づくりと運営について」	34
○ 安芸高田市愛郷小学校 「主体的な児童会活動」	15	○ 府中町立府中南小学校 「主体性を育む児童会活動～挨拶運動キャンペーンを通して～」	35
○ 安芸太田町立加計小学校 「加計っ子まつり」	16	○ 海田町立海田南小学校 「S S R（スペシャル・サポート・ルーム）開設について」	36
○ 北広島町立壬生小学校 「目標をめざしてチャレンジしよう」	17	○ 熊野町立熊野第四小学校 「人の役に立つことに喜びを感じる児童の育成」	37
○ 三原市立南小学校 「ペア学年で協力して競い合う、南小文武不岐クラスマッチの取組」	18	○ 三原市立田野浦小学校 「情報共有と共通理解による児童の居場所づくり」	38
○ 尾道市立久保小学校 「令和3年度児童会役員選挙 選挙活動」	19	○ 三原市立沼田東小学校 「のびのび教室（S S R）の運営」	39
○ 尾道市立向島中央小学校 「学校は面白いところ！～仲間づくりを充実させて～」	20	○ 尾道市立高須小学校 「高須小学校 思いやり宣言」	40
○ 三次市立三次小学校 「授業観察交流」	21	○ 庄原市立庄原小学校 「スマイル・プロジェクト～みんなであつなろう！～」	41
○ 三次市立十日市小学校 「組織的な生徒指導体制」	22		
		○ 東広島市立中央中学校 「特別支援推進委員会の組織的な取組」	42
		○ 府中町立府中中学校 「生徒主体の文化祭の創造」	43
		○ 府中町立府中緑ヶ丘中学校 「人間関係作りトレーニング」	44
		○ 三原市立宮浦中学校 「校内適応指導教室の整備と活用」	45
		○ 尾道市立久保中学校 「自己有用感の向上を目指して」	46
		○ 庄原市立庄原中学校 「組織的な生徒指導体制の確立」	47
		<b>(3) 高等学校</b>	
		○ 広島県立三原東高等学校 「特別活動における生徒の自己肯定感を高める取組」	48
		○ 広島県立大竹高等学校 「体育的行事」	49
		○ 広島県立松永高等学校 「団結心・連帯感を養う運動会の実施」	50
		○ 広島県立沼南高等学校 「コロナ禍における体育祭の実施について」	51
		○ 広島県立黒瀬高等学校 「生徒会行事及び生徒会執行部の取組」	52
		○ 広島県立河内高等学校 「「医療従事者に感謝を」プロジェクト」	53
		○ 広島県立安西高等学校 「学ぶことの意義を問う粘り強い指導」	54
		○ 広島県立福山商業高等学校 「学校を元気にする部活動の成果発表」	55

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	海田町立海田東小学校	校長	石川 和明	担当者名	吉岡 朋美
-----	------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『東っ子 ここからチャレンジ』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通した絆づくり
---	----------------	----------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

- 学校生活のきまりについて理解し，実践する力
- 自分の考えによって判断し，行動する力
- 自らを抑制する力

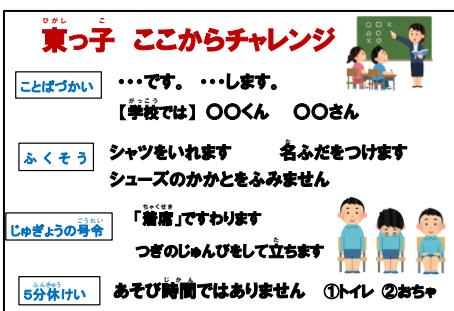
取組のねらい

生徒指導規程や「東っ子の学び」の取組をもとに全校で目指すべき児童の姿を示し，それを達成しようとして意識して取り組むことで，よりよい学校生活を送ろうとする主体的，実践的な態度の育成を目指す。

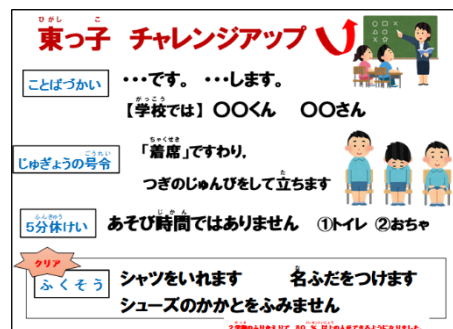
取組の具体的内容

取組の創意工夫

- 「東っ子 ここからチャレンジ」の取組
  - ・コロナによる臨時休校，分散登校，時間差授業を経て，あわただしく1学期が終了した。落ち着いた2学期の学校生活を送ることができるように，言葉遣い，服装，授業の号令，5分休憩の過ごし方に項目を絞り，重点的に全校で取り組んだ。
- 「東っ子 チャレンジアップ」の取組
  - ・2学期の振り返りでは，服装の達成率が90.2%となりクリアできた。学年末に全てがクリアできることを目指して，「東っ子 チャレンジアップ」に継続して取り組んでいる。
- 「時間を守る」の取組
  - ・3学期の生徒指導研修で本校の課題と背景を探り，全校で取り組む課題を決めた。指導ラインを決めて，全教職員で意識統一して一点突破を目指す。



- ・「時間を守る」の取組では，教師がすること，児童がすることを明確にし，全教職員で指導方針を共通理解して取り組むようにした。
- ・学級ごとに毎日の状況を振り返り，児童に肯定的評価を伝えた。
- ・期間を1週間ごとに区切り，指導→中間振り返り→見直し指導→振り返りと，短いスパンで取り組むようにした。



取組の成果と課題

- 項目を絞り全校で取り組むことで，きまりを守ろうとする児童が増えてきた。自主性・自律性を高め，自己管理する能力と態度を育成するよい機会となった。
- 指導基準を明確にすることで，教職員が一貫性をもって指導することができた。
- 切り替えが難しかったり指導が身に付かなかったりする児童がいる。適切な支援を交えながら，継続して指導を続けて行く必要がある。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校  
「指定校における取組事例」

学校名	東広島市立黒瀬中学校	校長	三原 隆行	担当者名	佐藤 豊
-----	------------	----	-------	------	------

**取組事例名** 『クロリンピック』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

**取組における育てたい資質・能力**

本校の学校教育目標「前向き」のもと、育成したい資質・能力の内、特に次のもの。

- <学びに向かう力> 目標に向かって工夫しながら、粘り強く取り組む生徒
- <価値観・人間性> 仲間を大切にし、他者と協働・協調して課題に取り組む生徒

**取組のねらい**

- 中止となった体育大会に代わり、平素の学習を総合的に発展させ、その成果の発表と自己の体力・技能を発揮する場とする。
- 生徒が主体的に活動することにより、運営の能力と生徒会活動の活性化を図る。
- 安全な行動や規律ある集団行動を通して仲間と協力し、団結することの喜びを味わわせる。

**取組の具体的内容**

- 生徒会による体育大会代替案の提案（6月）
- 企画委員会等での検討（6月）
- 生徒会による具体案の企画立案（6月～8月）



3密を避けた種目を検討する生徒会執行部の様子

- 練習（9月）
- クロリンピック前日準備
- クロリンピック当日



**取組の創意工夫**

- 生徒会主体の取組となるようにする。
  - 実施の提案
    - 中止になった体育大会に代わる行事の前向きなネーミング。
  - 3密を避けた運営
    - 無観客での開催。
    - 応援は拍手のみ。
  - 3密を避けた実施種目
    - ソーシャルディスタンスを確保できる種目選択。
  - 3密を避けた入退場
    - 種目ごとの入場行進を行わず、スタート地点集合とする。
  - 前日準備
  - 当日の運営
    - 生徒会主体で実施。

**取組の成果と課題**

成果：中止となった体育大会の代替案を生徒会中心となって企画運営することで、生徒の主体的な活動を推進することができた。また、普段の学校生活を見直し、生徒自身が学校生活を改善していこうとする意欲の向上につながった。

課題：生徒の主体的な活動を支援し高めていく校内体制について充実させていく必要がある。生徒とともに現状を見直し改善していこうとする教員側の意識や意欲に課題がある。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校  
「指定校における取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市中学校	校長	枝廣 泰知	担当者名	幸田 峻一
-----	-------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『文化活動発表会』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	----------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

主体性・積極性

取組のねらい

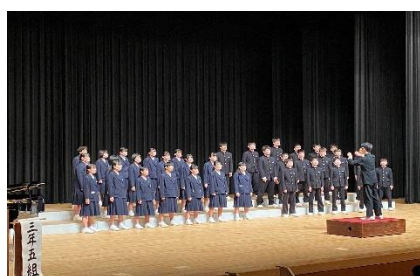
○企画や運営から生徒が主体的に参加し，学年・学級の枠をこえてかかわり合うことで，学校集団としての活力を高める。

取組の具体的内容

- コロナ禍で文化祭に替わるものを行うために模索した結果，近隣のはつかいち文化ホール（さくらびあ）で文化活動発表会を行った。
- 廿日市中学校伝統のソーラン節（3年生有志）から始まり，各クラス合唱・放送部や吹奏楽部の発表を行った。
- クラス合唱では，コンクール形式はとらずに練習時間やコロナ禍を考慮し，同じ曲・短い曲で行った。

取組の創意工夫

- はつかいち文化ホールで行うに当たり，収容人数の関係上（制限あり），全職員が生徒につけなかったため，企画から生徒会執行部を中心に行った。
- 展示等の当日の発表が難しいものについては，校内の空き教室を利用し，展示スペースを作った。展示期間も設け，保護者にも見学できるようにした。



取組の成果と課題

- 学校評価アンケート（生徒用※3年生） クラスの中に自分の居場所がある  
7月 96%（3そう思う：37% 4とてもそう思う：59%） 12月 98%（3そう思う：28% 4とてもそう思う：70%）  
→3年生にとって行事というのは，絆作りにおいて重要な場であることが再認識できた。特に，コロナ禍において短縮された行事であるが，文化祭に替わるものを行ったことは効果があった。
- アセス結果  
他の要因も考えられるが，課題であった3年生の自己有用感がさらに向上している。
- コンクールではなく，発表という形で終わったので，生徒の達成感につなげることが難しかった。来年度以降も，どのような状況になるのか分からないので，練習過程や振り返り等を工夫し，生徒の達成感やクラスの絆作りにつなげていきたい。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	廿日市市立大野東中学校	校長	田浦 由紀夫	担当者名	中次 伸彦
-----	-------------	----	--------	------	-------

取組事例名 『生徒が抱える課題に応じた段階的支援の充実』

生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	---	----------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

- ・様々な課題に柔軟に対応するためのレジリエンス
- ・自他を認め，自己有用感を育むことで，集団生活や社会生活を円滑に進めていける力

取組のねらい

生徒の課題や状況に応じて，効果的に不登校生徒及び不登校傾向生徒を指導・支援することができるようにするため。また，集団生活への難しさ等から学級へ行くことができない生徒の一時的な居場所をつくることで，不登校未然防止に取り組むための校内適応指導教室の充実。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

1 校内適応指導教室の整備

従来からある「ふれあいルーム」は，不登校及び不登校傾向の生徒が学級復帰のための教室として設置している。近年増えている集団生活になじめない生徒などについて，学校とのつながりを途切れなくするために，校内の居場所づくりとして，「SSR（校内適応指導教室）」を新たに設置した。



ふれあいルームについては，面談を設けての入室としており，SSRは利用希望者がいればいつでも対応できるようにしている。個別の学習や活動に応じて，両室をどちらも活用できるよう工夫している。

利用生徒の指導・支援については，子どもつながり支援員が寄り添っているが，時間割にSSR担当を組み込むことで，いつ，誰が登校してきても教職員が対応できるように体制を整えている。

登校の際には，パズルやブロック，塗り絵などで脳を活性化させたり，SCやSSWとの面談を設定したりしている。また，学習の遅れを気にする生徒も多いので個別の学習にも励んでいる。

2 校内研修の充実

専門的な知識や手法を学ぶとともに，日々の教育実践に活かすことができるような体験型の研修に取り組んだ。具体的には，サテライト研修「レジリエンス育成」やSC校内研修「心に寄り添うカウンセリング・マインド」を実施した。

取組の成果と課題

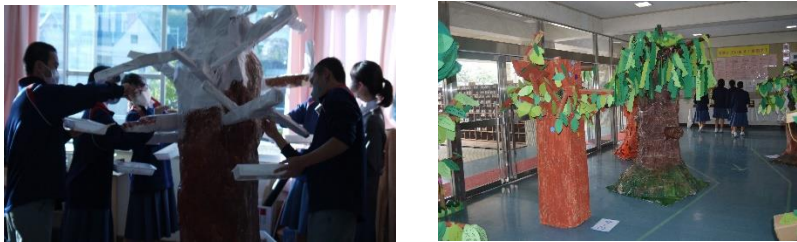
○校内適応指導教室利用生徒は，昨年度2名から今年度11名と増加した。SSRを設置したことで，一時的な居場所ができ，教室に行くことはできないが，SSRがあるから登校できる生徒もいる。

○生徒の学校生活アンケートにおいては，「学校の中に，ほっとできる時（場所）がある」の肯定的回答は79%（1学期）から86%（3学期）に上がった。

○不登校生徒においては，昨年度16名から今年度18名（1月末現在）と増加した。内新規不登校生徒は7名である。原因としては，生活習慣の乱れやHSCの傾向が顕著になったことが考えられる。



令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校  
「指定校における取組事例」

学校名	海田町立海田中学校	校長	河北 光弘	担当者名	小田 一治
取組事例名		『文化祭～海中の森の製作を通して～』			
生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり	
<b>取組における育てたい資質・能力</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールアートに主体的に取り組むことによって，他者と力を合わせる大切さや協調性を育む。</li> <li>・クラスで作品を作ることを通して，自分の役割を全うする責任感，主体性，コミュニケーション能力を育成する。</li> </ul>					
<b>取組のねらい</b>					
<p>今年度は新型コロナウイルス感染防止ため，例年行っていた合唱祭が実施できなかった。その中でクラスごとに段ボールアートに取り組むことによって，他者と力を合わせる大切さ，また，クラス単位で作品を作ることによって，クラスの結束を図ったり，自分の役割を全うしたりする責任感を生徒に身に着けさせることねらいとした。</p>					
<b>取組の具体的内容</b>			<b>取組の創意工夫</b>		
<p>各クラスで骨組みとなる木の幹，枝を決められたサイズの中で段ボールを用いて制作していく。次に適当な大きさにちぎったり切ったりした段ボールをのりやガムテープで骨組みに着けていく。画用紙を葉っぱの形に切ったものに1人2～3枚今回のテーマである「自分」「地域」「未来」を基にメッセージを書き，それを枝に貼り付けて一本の木にする。そして，完成した木を集めて展示発表する。</p>			<p>木の幹，枝に関しては細やかな指定はせず，クラスのオリジナリティに任せた。その結果，クラスの個性が十分に出て，素晴らしいものになった。</p> <p>また，今回の文化祭のテーマは「想い 自分を想う・地域を想う・未来を想う」であった。「自分」「地域」「未来」への生徒それぞれの思いが1本の木に集うように工夫した。また，各クラスの木を生徒玄関に集め，海中の森を作ることによって，学校としても一体感が高まるようにした。</p>		
					
<b>取組の成果と課題</b>					
<p>12月の全校生徒のアンケート「行事に積極的に取り組んだ」に肯定的に回答した生徒は91%であった。また，「委員会や係の仕事を，責任をもってやっています」に肯定的に回答した生徒は90%であった。この結果から，文化祭の取組は生徒にとって意義深く，生徒の主体性や責任感を育てるには有益であったと考えられる。</p> <p>また，文化祭の生徒の感想から段ボールアートの作成に関わって，クラスの結束が高まったと感じていたり，クラスメイトと協力したりして物をつくる達成感を感じた生徒が多かった。事実上，今年度の大きな学校行事は文化祭だけであったが，生徒にとっては思い出に残るものになった。また，3年生の作品は卒業証書授与式にも展示する予定である。</p>					

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	熊野町立熊野東中学校	校長	大田 稔	担当者名	松田 憲二郎
-----	------------	----	------	------	--------

取組事例名 『生徒指導の三機能を活かした生徒会活動の在り方』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	----------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

- ・学校教育目標「“志”をもつ」  
～当たり前なことを当たり前でできる生徒の育成～
- ・熊野東中三訓「時を守る 場を清める 礼をつくす」

取組のねらい

- ・生徒会を中心とした行事の実施を通して，生徒自身の学校を自らの手でよくしようとする態度を培うとともに，自身の行動に責任をもつことができるようになる。
- ・生徒会の代替わりの際，執行部の生徒の思いを形にし，生徒全員においてそれぞれの思いを表現させる。このことを通して，自分の思いを共有するとともに他の人の思いに応える行動を考えられるようになる。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月：生徒総会に向けた取組 生徒総会の取組 生徒総会後の取組 各生徒会委員会の立案・実施・振り返り</li> <li>・ 1月：生徒会選挙 新執行部発足・リーダー研修 生徒会ガイダンス</li> <li>・ 4月：生徒会オリエンテーション（予定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒自身が現状を把握し，よりよい学校生活を送るためにできることを考えさせる。</li> <li>・ 議論した結果集約された意見は校長先生の助言のもと実現するよう努めた。（昼休憩の時間のグラウンドの活用，脳トレルームの設置，昼食時間に音楽を流す）</li> <li>・ 立候補者の思いを表現させる場を設ける。また，リーダー研修で思いを形にし，新学期に発表させる。</li> <li>・ 中学校生活のめざす姿を新入生に示す。それに応えようとする生徒を育てる。（予定）</li> </ul>
---	---

取組の成果と課題

「行事や体験活動に満足している」に肯定的に回答した生徒の割合が80.1%である。また、「物事を最後までやりとげて嬉しかったことがある」に肯定的に回答した生徒の割合が90.9%である。行事の実施に向けた取組を通して達成感を感じることができたと考える。今年度の取組はまだ途上であり，次年度以降に継続したい。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	三原市立第三中学校	校長	有木 浩城	担当者名	高田 直也
-----	-----------	----	-------	------	-------

取組事例名 『三中チャレンジカップ』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

「コミュニケーション能力」 「課題発見・解決力」 「思いやりと協調性」

取組のねらい

- (1) 年間を通して，縦割り集団で活動を仕組み，互いに競い合い，認め合い，励まし合う中で自治的集団をつくる。
- (2) 生徒が目的意識を高め，様々な行事や授業，点検活動等に主体的に取り組むことができる。
- (3) ピア・サポート活動を通して，課題解決する力をつける。
- (4) 生徒会執行部や第3学年生徒を中心に企画・運営をしていく中で公正に行動し，進んで規則を守り，互いに協力して責任を果たすなど，社会生活に必要な態度を養う。

取組の具体的内容

年間を通して縦割りの集団で活動を仕組み，学校行事や委員会の点検活動を行い，活動を得点化した。活動のほとんどが「集団」で行うものだったため，コロナ禍により，年度当初計画していたものとは，大きく変更することとなった。しかしながら，生徒会執行部を中心として，生徒からアンケートをとり，感染拡大防止の3密を回避できる活動を企画・立案し行った。以下が取組内容である。

三中チャレンジカップ年間計画

実施時期	実施内容	担当する委員会 (教科・実行委員)
7月	号令 GP	生活委員会
9月	球技大会 GP	球技大会実行委員
10月	運動会	運動会実行委員
1月	持久走 GP	保健体育科

取組の創意工夫

三中チャレンジカップは，今年度で3年目となる取組である。今年度は，昨年度からより発展させる予定であったが，コロナ禍により活動が制限されてしまった。その中でも生徒が主体的に取り組めるよう実行委員会を立ち上げ取り組んだり，活動の詳細や結果をまとめて掲示したりして，絆づくりのきっかけにした。



取組の成果と課題

コロナ禍により，様々な学校行事や活動が中止・縮小されていく中で，感染拡大防止の対策を行い，工夫して取り組むことができた。生徒の振り返りの中には，「結果はともかく，少しでもみんなと関わり合えるだけで満足だ。コロナで休校になって少なくなったクラスのみんなとの時間を大切に過ごしていきたい」との感想もあり，絆づくりのきっかけにもすることができた。来年度も取組を継続させ，新しい生活様式の中で実施できることを生徒とともに考え，発展させていきたい。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	尾道市立栗原中学校	校長	井上 一男	担当者名	坂本 篤宏
-----	-----------	----	-------	------	-------

取組事例名 『主体性と規範意識の育成』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
---	----------------	----------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

主体性・規範意識

取組のねらい

- 教育相談委員会と生徒指導部会を定例化させ，教職員及びSCとSSWの連携を密にし，チーム学校としての指導体制を確立させる。
- 生徒会執行部による定例会を行い，生徒自ら学校の課題を考える場を設ける。また，委員会活動を通して，課題解決に向けた取組を考え，実践することで，生徒の主体性や規範意識の向上につなげる。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

○教育相談委員会の定例化（毎週木曜日）

- ・参加メンバー→管理職，生徒指導主事，学年教育相談担当者，養護教諭，SC，SSW
- ・情報の共有化→生徒の状況把握や取組の方向性を検討。
- ・SC，SSWとの連携・協働体制の構築  
→特定の教職員による抱え込みがないよう，SCやSSWの助言を受け，組織的に対応している。

教育相談委員会での情報共有

- ・個別の状況を一週間ごとに記録し，生徒の状況把握ができるようにしている。

日	時	議題	出席者	欠席者	出席率	議題	経過	結果	次回以降の対応	備考
1										
2										
3										
4										
5										
6										

【記録表】

○生徒指導部会の定例化（毎月第3水曜日）

- ・指導方針等の共通理解及び見直し  
→学校の実態に応じた生徒会活動の進め方を検討。

委員会活動の流れ

- ①生徒指導部会⇒学校の実態把握 ←
- ↓ 【Action】
- ②生徒会定例会⇒生活目標の設定
- ↓ 【Plan】
- ③委員会⇒取組内容の決定・実践
- ↓ 【Do】
- ④生徒会担当者⇒取組内容の評価
- ↓ 【Check】



【各委員会の掲示物】



【生徒会定例会の様子】

取組の成果と課題

	令和元年度	令和2年度	前年比
SSWによる支援件数（件）	15	29	+14
SCの助言による関係機関との連携（件）	1	5	+4
生徒アンケート（主体性・規範意識にかかわる項目）			
日頃の活動や行事で主体的・協力的に行動できています。	87.4%	84.3%	3.1%↓
自分たちの力で決まりを守り，活動しています。	87.4%	81.8%	5.6%↓

- 教育相談委員会では支援方法等を検討し，特定の教員による抱え込みがなくなるよう組織的に対応した。
- SSWの介入により，福祉機関と保護者をつなぐことができ，適切な支援を行うことができた。
- SCの助言のもと，関係機関や保護者と連携を行い，生徒への支援につなげることができた。
- 生徒アンケートは，肯定的な回答が8割を超えているが，昨年度と比較し減少した。今後も生徒会活動の活性化に取り組み，生徒の主体的な活動になるよう工夫していくことが必要である。



令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	尾道市立高西中学校	校長	濱本 かよみ	担当者名	平原 広治
取組事例名 『TAKANISHI 志プロジェクト』					
生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり	
取組における育てたい資質・能力					
主体性・協働性					
取組のねらい					
<p>・本校は近年目に見える問題行動の数は減少傾向にあるが，不登校生徒の増加やSNSに関する人間関係のトラブル等の目に見えにくい静かな荒れがみられる。そこで，「自治的風土の醸成」を研究の柱の1つに掲げ，生徒会活動を活性化させ、生徒の自己指導能力を育成することをねらいとして取組んでいる。</p>					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>① 全校学活・生徒朝会・学校朝会で目的の共有を行い，何のためにやるのか，何を頑張るのかを確認を行いながら活動のRPDCAをまわした。</p> <p>② 委員会活動の活性化に向けて，事前の委員長会議を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習委員 期末の刃（定期試験にむけた取組み）</li> <li>・生活委員 時を守り 場を清め 礼をたやすキャンペーン</li> <li>・広報委員 川柳選手権</li> <li>・保安委員 換気・マスク着用対策</li> <li>・整備委員 正しい掃除の仕方の動画作成 等</li> </ul> <p>③ コロナ禍で例年のような学校行事や集会ができなかったため，昼休憩に週一回生徒会役員がラジオ形式で放送を行った。放送の内容としては，先生にインタビューをしたり，全校生徒からラジオで流してほしいリクエスト曲を流したりするなどの取組を実施した。</p> <p>④ 6月の体育大会が中止になったため，感染拡大の状況をみながら11月に各学年単位でミニ運動会を企画し，実施した。</p>			<p>・全生徒が見える場所にテレビを設置して取組みや目標を可視化した。</p> <p>・生徒会役員でワークショップ形式で課題を分析し，課題解決に向けての取組みを検討したこと。</p> <p>・全生徒が少しでも楽しめる昼休憩になるようにと，毎週の原稿内容を担当者が考えたり，アンケートをとって多くの生徒の声をひろったりしたこと。</p> <p>・各学年単位で実行委員を立て，企画，運営することにより，学年のリーダーの育成になった。また，3年生の姿を全校集会などで肯定的評価することで，取組みをつなぐことができた。</p>		
取組の成果と課題					
<p>昨年度の問題行動の件数（暴力行為16件 いじめ認知件数11件 特別な指導37件）と比較すると今年度1月末までの問題行動の件数（暴力行為6件 いじめ認知件数3件 特別な指導10件）は減少傾向にある。生徒の自治的風土が育ってきている。</p> <p>一方，不登校生徒数は増えており，共感的人間関係の形成という視点では課題がのこった。</p>					

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	大竹市立大竹小学校	校長	野崎 光弘	担当者名	上田屋 陽子
取組事例名		『 あいさつ名人 』			
生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり	
<b>取組における育てたい資質・能力</b>					
主体性，自主性					
<b>取組のねらい</b>					
<p>模範的な挨拶ができる児童を「あいさつ名人」に認定し，あいさつを推奨する取組は，数年前に発案され，全校的に「あいさつのできる大竹っ子」が定着しつつある。しかし，高学年になると元気にあいさつをする児童が減り，あいさつ名人の数も少なくなることが課題であった。発達段階の違いが要因として挙げられるが，この課題そのものを運営委員会に投げかけ問題解決を図った。</p>					
<b>取組の具体的内容</b>			<b>取組の創意工夫</b>		
<p>高学年にあいさつ名人が少ない理由を運営委員会で話し合った結果，名人バッジのデザインが魅力的ではなく，高学年が胸につけるのに抵抗があることが分かった。そこで，バッジのデザインを児童に募り，リニューアルすることにした。コンテストを行い，既存のバッジに加え4種類が決定した。</p> <p>また，新デザインを校内に周知するために，「あいさつ名人キャンペーン」として，ポスターを作成して貼り出したり，昼の放送をしたりした。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を運営委員会に投げかけ，解決策を児童に考えさせたことで，主体的に取り組むことができた。</li> <li>・児童から出されたアイデアを実現させるために，課題を整理したり，見通しを持たせたりすることで，活動意欲を高めることができた。</li> </ul>		
					
<b>取組の成果と課題</b>					
<p>○6年生のあいさつ名人の数が，昨年度0人に対し今年度は35名（12月現在），1年生は昨年度26人に対して44名と大幅に増えた。</p> <p>○学校評価アンケートにおいては，「学年に合わせたあいさつができる」の評価項目における肯定的評価が児童93%，保護者80.9%，教職員88%であった。ほとんどの児童が，自信をもってあいさつをしていると自覚している。特に，6年生は，自分たちが主体的に活動したことが自信になり，自己肯定感を上げたと思われる。</p> <p>▲今回の取組は，運営委員会の活動にとどまっていたが，他の委員会でも，コロナ禍でできることを考えるなど，自主的，主体的な活動を広げていきたい。</p>					

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	校長	北川 千幸	担当者名	向井 千代子
-----	-------------	----	-------	------	--------

取組事例名		『 気持ちのよいあいさつを広げよう 』	
○	生徒指導に係る連携体制の確立	○	主体的な活動を通じた絆づくり

取組における育てたい資質・能力

表現力 主体性 自己有用感

取組のねらい

- ・気持ちのよいあいさつを意識させることにより温かい人間関係や児童同士の絆を育む。
- ・あいさつがよくできる児童を承認したり写真や放送で紹介したりすることにより，自己肯定感を育む。
- ・取組を推進した生活美化委員児童を承認することにより，自己有用感を育む。
- ・あいさつ週間の取組により，よりよいあいさつを強化し，習慣化につなげる。

取組の具体的内容

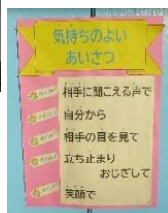
取組の創意工夫

- 〈10月末～11月〉あいさつに関する学校評価アンケートの結果を教職員に提示し，「あいさつの取組」について学年会で考え，生徒指導部で集約する。
- 〈12月〉児童用「生徒指導だより」にて，あいさつの様子やアンケート結果を提示し，自分のあいさつを振り返らせる。
- 〈12月～1月〉児童主体の取組にするため，生活美化委員会で取組内容の決定・取組準備（動画作成・名人カード作成等）を行う。

- ・教職員が課題意識や共通認識をもって取り組めるよう学年会を活用した。
- ・アンケート結果を提示し「相手に伝わるあいさつになっていない」ことに気付かせた。
- ・児童に主体をもたせながら，教職員からのアイデアも提示した。

【生活美化委員会を中心とした取組内容】

- ① 各クラスで動画を見て，気持ちのよいあいさつとはどんなあいさつか考える。
- ② 1月の生活目標に対するクラスの取組を考える。
- ③ 生活美化委員会によるあいさつ週間の呼びかけ
- ④ あいさつ週間（1月18日～29日）
  - ・教職員等によるあいさつ名人カードの配付
  - ・あいさつ名人の写真撮影→掲示
- ⑤ 地域の見守り隊との連携
- ⑥ あいさつ週間の振り返り（個人・生活目標）
- ⑦ 放送によるあいさつ名人の紹介・クラスの取組の紹介
- ⑧ 放送による「あいさつ週間の振り返り」の感想紹介
- ⑨ 3月，生活目標「あいさつでありがとうを伝えよう」の実施



- ・生活美化委員会作成の動画を視聴させることにより，目標にしたい「よりよいあいさつ」を明確にした。
- ・児童個人にもクラスにも目標をもたせた。
- ・児童に関わる全ての職員（約60人）で児童を承認する活動を行った。
- ・地域の方へも協力を依頼した。
- ・自分や友達のがんばりに気付かせた。
- ・放送による「あいさつ名人」の紹介等を委員会児童に任せ，活躍の場を与えた。
- ・取組効果の検証を行う。



取組の成果と課題

- 1学期末の学校評価アンケートの結果によると，「あいさつがよくできている」と回答した児童は91.5%であったが，保護者(72%)教職員(68%)は低い状態であった。この結果を受け，児童が主体となる取組を工夫して行った結果，あいさつ週間終了後も気持ちのよいあいさつをする児童が多く，2月下旬に「あいさつがよくできている」と感じる教職員は86%と向上した。
- 多くの教職員からの肯定的評価により自信をもってあいさつをする姿が見られるなど児童の自己肯定感・有用感が育った。
- 教職員自身が，課題意識と共通認識をもって全員で取り組むことや児童を主体とした活動の有効性を感じることができた。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	府中町立府中北小学校	校長	黒山 寛司	担当者名	加藤 由美
-----	------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『 学級力アンケート（スマイルミーティング） 』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
---	----------------	---	------------------------------	---	----------------

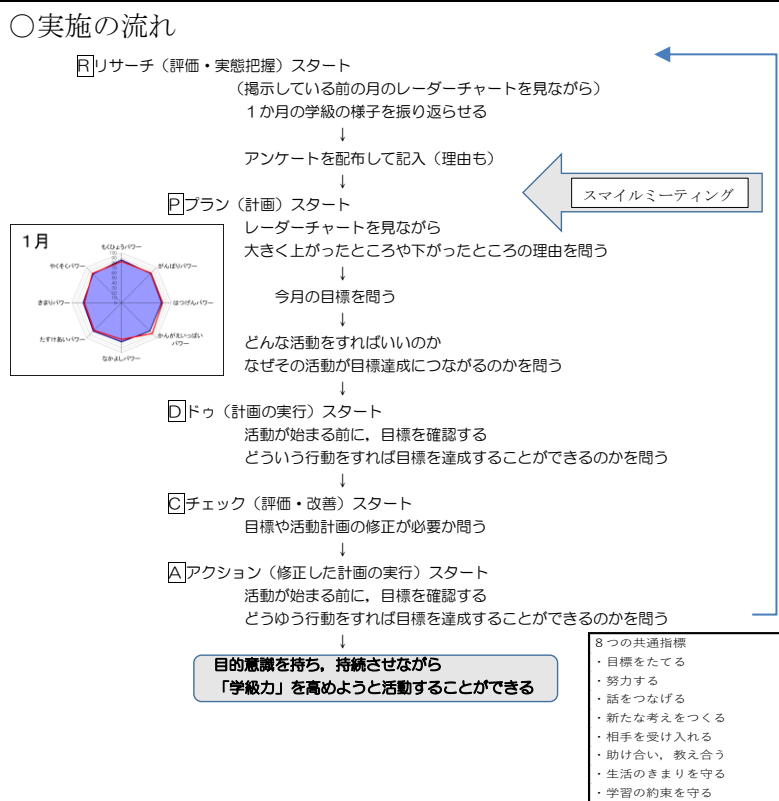
取組における育てたい資質・能力

- ・自らが伸びようとする意欲と実践力

取組のねらい

- ・「子供の支持的な学級風土を作っていこうとする力」（学級力）を高める。
- ・学級全体を個々の児童がどう見ているか把握し，学級に対する問題意識や目的意識を明らかにして学級づくりに生かす。（望ましい関係づくり，居場所づくり）
- ・情報共有と多角的・多面的な児童生徒理解に基づく教職員の意識的な対話や言葉がけ。

取組の具体的内容



取組の創意工夫

- ・スマイルミーティングについて
- 毎月1回（月末の火曜日）
- 各学級での R が終わった後，学年部の職員で集まり，レーダーチャートを基に8つの共通指標で学級を分析・評価し，共通の視点でアドバイスし合ったり有効な取組を共有したりする。
- 毎週金曜日暮会后5分程度
- 学年部を中心に，各学級担任が日々の取組の中でうまくいったこと，気になること，悩み等を交流する。
- スマイルミーティングの内容はスマイルカードを使って生徒指導主事が集約し，管理職に報告。月単位のPDCAを積み重ねていく。
- スマイルカードと各学級の目標は職員にも回覧し，情報共有を図っている。

取組の成果と課題

新潟大学附属新潟小学校の学級力アンケートを基に取り組んでいった。レーダーチャートで8項目の月ごとの変化が分かりやすいので，児童は翌月の目標を意識して取り組みやすかった。教職員全員で取り組み，情報を共有することで，本年度の児童アンケートの結果は高い満足度を保っている（「先生はあなたの良いところを認めてくれます」94%→96%「自己肯定感」82%→87%）。しかし，初年度ということで，学級力アンケートにおいて，スマイルミーティング後の計画が遅れたり，リサーチの手順が担任の負担になったりすることがあった。年度当初に手順について詳しく研修を行い，学年部で実施状況を共有し，負担の少ない方法での取り組み方を考えていく。



令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	安芸高田市立愛郷小学校	校長	新本 信之	担当者名	佐々木 祐司
-----	-------------	----	-------	------	--------

取組事例名 『主体的な児童会活動』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

○学校教育目標を達成するための重点目標に「自ら考え行動できる子」の育成を掲げている。そこで育てたい資質・能力は「主体性」と「課題発見・解決力」である。

取組のねらい

○児童の主体的な活動の場としての児童会活動（委員会活動）を通して，学校の課題に自ら気づき，課題を解決していくための方法や手段を考え，課題解決しようとする意欲・態度を育成する。

取組の具体的内容

○開校から2年，昨年度の取組を深化させるため，新型コロナウイルス感染症対策の中で，できることを工夫しながら児童会活動に取り組んでいった。

○取組の具体的内容

①月ごとの生活目標の設定と振り返り  
児童会執行部，各委員会が生活目標を分担して設定した。生活目標は，執行部や各委員会の常時活動にあうように設定し，取組を具体的に決めていった。月末には各学級の取組の振り返りを行い，全校に知らせていった。さらに，執行部が毎日，生活目標等の振り返りを放送で行い，課題解決に向けたアドバイス等を発信していった。

②読み聞かせの取組  
図書委員会では，これまで各教室に行き，読み聞かせや本の紹介を行っていたが，今年度は新型コロナウイルス感染症対策の中で，動画を撮り，各教室で視聴した。

取組の創意工夫

○取組の充実に向けて，児童会と指導者が一緒に考えを出し合い検討することが，主体的に活動することにつながった。

○委員会活動では，日常的な学校の課題について考え，気付かせる場面をつくり，生活目標の設定等につなげた。

○一斉下校時に生活目標達成のための課題やできていることの肯定的な評価を児童会執行部から全校へ放送で伝えていった。

取組の成果と課題

○成果  
開校から2年，新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ，できることを考え工夫しながら取組を進めようとする児童会活動になった。児童の生活アンケートの中から，「課題解決」に関する項目では，肯定的な評価は86.5%となり，昨年度より6.2%上昇した。「自分から進んで役に立つ活動ができます」という項目では，82.8%となっている。このような結果から，「課題発見・解決力」の資質・能力の育成は，一定の成果をおさめていると考える。

●課題

児童会執行部，管理職，生徒指導主事等を中心に，校則の見直しの協議を進めている。これについては，中学校区での小・小連携，小・中連携も行い，共通性と継続性のある校則にしようとしている。児童の将来的な社会参画の意識を育てるためにも課題を見つけさせ，解決していくという点においても校則の見直しを加速的に進めていく必要がある。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	安芸太田町立加計小学校	校長	萩原 英子	担当者名	田村 麗子
-----	-------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『加計っ子まつり』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

○課題発見力 ○思考力 ○伝え合う力 ○耐える力 ○自己肯定感

取組のねらい

- ・いじめをなくすための行動についてみんなで考え、いじめのない加計小学校をつくる。
- ・異学年との交流の機会を持ち、同じ加計小学校の仲間としての絆を深める。
- ・校内で楽しく活動することを通して、学校生活の充実と規律意識の向上を図る。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

「加計っ子まつり」の取組

- 1 児童会主催の「いじめストップ集会」 代表委員会で出た困っていることについてみんなで話し合い，各学年の「いじめをなくすための行動宣言」を考える。
- 2 各学年の学習を生かした出し物を楽しむ。

「加計っ子まつり」の導入として，児童会主催の「いじめストップ集会」を行うことで，お互いを大切にする事の大切さを確認し，みんなで楽しむおまつりにするという目的を共有した。



生活科で作った  
手作りおもちゃで遊ぶ



総合的な学習の時間に  
調べたことをクイズにして



3 縦割り班遊び



密を避けて，各学年の出し物を3つに分け活動する教室も分散させた。

縦割り班での遊びは，6年が下学年に遊びの希望を聞き，場所が重ならないように調整し行った。

取組の成果と課題

- 色々な行事が中止になる中で，集会，出し物，班遊びなど，児童が工夫を凝らし，主体的に活動して交流する良い機会となった。
- 事後，「いじめストップ集会」で考えた「学年の行動宣言」を受けて「各自の行動宣言」を考え，教室前に掲示した。意識して取り組んでいるという児童の割合は1月の振り返りで78%であった。
- 一方，「加計っ子まつり」全体の企画立案については，今年度が初めての活動だったこともあり，教師主導の部分が多かった。計画委員会を立ち上げるなど，児童が企画から参画し運営することで，さらに主体的な行事になると良い。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	北広島町立壬生小学校	校長	板倉 寿恵美	担当者名	下杉 陽介
-----	------------	----	--------	------	-------

**取組事例名** 『目標をめざしてチャレンジしよう』

生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	---	------------------------------	----------------

**取組における育てたい資質・能力**

○「妨げ」を自覚し，多面的・多角的なとらえ方で「妨げ」を克服する自己指導能力

**取組のねらい**

・「妨げ」は様々な場面で存在することを自覚させ，それを克服する手立てを考え，目標に向かって自律して行動する。

**取組の具体的内容**

**取組の創意工夫**

**名文課題の暗唱に全校でチャレンジ**  
 古典，現代の詩歌，小説等 30 の作品の中から，課題文を選定し全校児童に配付している。児童は，課題の中から作品を選び，自主的に練習を行い，休憩時間に職員室を訪ね暗唱にチャレンジする。指導者は，合格者の冊子に印を押し，合わせて達成状況を廊下に掲示する。全作品の暗唱に合格した児童には，賞状を渡して表彰し，さらなる発展課題に取り組ませている。



暗唱ができるようになるためのプロセスは「練習方法を工夫して取り組む」「児童同士で練習し合う」「助言し合う」など多様にある。熱心に取り組む児童の姿が毎日見られ，全校で意欲的に取り組むことができた。暗唱の苦手な児童もいるが，「妨げ」を自覚し，一人一人が自分に合った練習方法を見つけながら取り組み，「意志力」の向上につながる取組になっている。「チャレンジを職員に依頼する」「相手を意識して話す」「謝意を伝える」など，適切なコミュニケーションスキルを学ぶ機会にもなった。



**「あいさつ」「靴そろえ」等，表彰活動**  
 重点取組を設定して呼びかけを行い，日々の状況を記録し，学期ごとに表彰を行う。メダルや賞状による表彰及び学校だよりによる公表により，前向きに取り組む動機づけになっている。

コロナ禍により，元気な挨拶が難しい期間もあったが，「会釈をする」「ドライバーへの謝意を伝える」など，多様な挨拶の形を考え，実践することができた。下校中，怪我をした児童を手当し，学校や家庭，地域への協力を，児童が的確に判断して対応した事例があった。感謝状を発行して高く評価し，全校で紹介するなどした。

**組織的な対応による「特別な指導」**  
 問題行動が発生した場合，速やかに管理職に報告し，生徒指導委員会により指導方針について協議し，組織的に指導に当たった。

指導者の多弁は避け，自身を振り返らせる指導を意識して取り組んだ。考えを言語化し，整理させるため，必要に応じて文章等で記述させ，課題改善，成長に向けた見通しをもたせることを支援した。

**取組の成果と課題**

児童の自己評価アンケート（11月実施）では，「目標を達成するために，具体的な手立てを考えて取り組んでいる」という項目で94%の児童が，自身を肯定的に捉えている。今後も，育てたい資質・能力を明確化し，学校行事や活動の見直しを進め，児童が自身の課題に向き合い，目標の達成に向けて具体的な手立てを設定して取り組む，学びのサイクルを確立させていきたい。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	三原市立南小学校	校長	新庄 直子	担当者名	森林 竜也
取組事例名 『ペア学年で協力して競い合う，南小文武不岐クラスマッチの取組』					
生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話		○	主体的な活動を通じた絆づくり
取組における育てたい資質・能力					
主体性・コミュニケーション力					
取組のねらい					
5・6年生のペアで活動することにより，学級やペア集団への所属感を持たせるとともに，多様な活動設定により，自ら役割を見つけ主体的に活動し，自己有用感を持たせる。					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>○クラスマッチ実行委員会の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学級の代表者による実行委員会を設置する。</li> </ul> <p>○実行委員による各学級の意見集約</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実行委員は各学級の意見集約，実行委員会での審議事項の報告をおこなう。</li> </ul> <p>○種目・配点等の決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「文」（学習に関する種目）「武」（運動に関する種目），応援態度の三観点で配点を行い，児童の自発的・主体的な活動を促す。</li> </ul> <p>○ペア学級・各学級での取組目標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペア学級での目標設定（6年生主導）</li> <li>学級での目標設定（実行委員主導）</li> </ul> <p>○自主的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>休憩時間の練習（異学年での声かけ）</li> <li>学習の教え合い</li> <li>応援グッズ作成，応援練習</li> </ul> <p>○クラスマッチ本番</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「武」2種目及び応援 代表リレー</li> <li>半数の児童が競技中，半数の児童は応援をする。</li> </ul> <p>○振り返り・次回に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学級で集団づくりについて学んだことを振り返る。</li> </ul>			<p>○実行委員会制度を取り入れることで，児童主体の活動とするとともに，役割の中で児童のリーダー性を育てる。</p> <p>○応援・態度の項目を設けることにより，グッズ作成や応援団など，児童が多様な役割を設定できるようにする。</p> <p>○5・6年一学級ずつをペアにすることで，6年生には最高学年の自覚を促し，5年生は6年生の姿から学べるようにする。</p> <p>○「文」の分野を先行して実施することで，「武」についての達成目標と練習計画を主体的に改善できるようにする。</p> <p>○実行委員に会の進行や審判等，当日必要な役割の教職員への依頼などを任せ，主体的に行動できる場をつくる。</p> <p>○ペア集会・学級会を活用して学びを振り返り，第2回への動機づけを行う。</p>		
取組の成果と課題					
<p>○Hyper-QU 学級満足群の割合 5年 32%⇒39% 6年 50%⇒56%</p> <p>活動を通して多様な活躍の場を児童が自ら見出すことで，学級及びペア学級で団結して取り組むことにより，自己有用感や所属感を高めることができた。</p> <p>●カリキュラム・マネジメントの視点で，他の学習とより効果的に関連させる必要がある。</p>					

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	尾道市立久保小学校	校長	豊田 浩矢	担当者名	内田 哲雄
-----	-----------	----	-------	------	-------

**取組事例名** 『令和3年度児童会役員選挙 選挙活動』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

**取組における育てたい資質・能力**

共感的人間関係の育成  
自己存在感の育成

**取組のねらい**

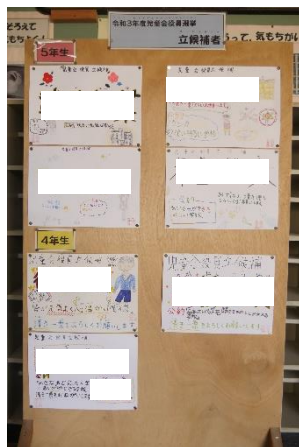
全児童が相手意識を持って学校生活を送ることができるようになるために，協力して諸問題を解決しようとする共感的な人間関係を育成する。

**取組の具体的内容**

- 児童会役員選挙公示（第4学年及び第5学年）
- 立候補者推薦者説明会
- 選挙運動2月8日（月）～2月16日（火）
- 立候補者・推薦者演説会及び投票
- 新児童会役員認証式
- 新児童会役員決意表明

児童会役員選挙運動の

ポスター →



**取組の創意工夫**

- 立候補者が選挙運動を行う際に，手作りのポスターやたすきを制作した。立候補者と推薦者だけでなく，クラスの仲間に声をかけ，協力して制作するようにした。
- 昨年度までは3年生以上に選挙権があったが，今年度から「全校児童が責任を持って役員を選ぶ」という観点から，全学年に選挙権を与えた。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から，選挙運動期間中はZoomを利用し，給食時間に演説を行った。また，演説会及び決意表明（予定）では放送による演説を行った。

**取組の成果と課題**

- 協力してポスターやたすきを制作するなど，クラスの仲間が立候補者を応援し選挙運動を成功させようとする姿がみられた。
- 立候補者同士が，「(演説では) 声の出し方がよかったよ。」「よくがんばったね。」と認め合う姿がみられた。
- 選挙運動期間中，他学年の児童が，立候補者に「がんばってね。」と声をかける姿がみられた。
- △ 今年度から低学年にも選挙権を与えたが，立候補者の演説内容を理解することが難しく，学級担任がかみ砕いて説明する必要があった。低学年がイメージしやすいイラストを準備する，公約をわかりやすく言い換えたキャッチフレーズを考える等の工夫をする必要がある。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	尾道市立向島中央小学校	校長	加登谷 州章	担当者名	脇本 賢一
-----	-------------	----	--------	------	-------

取組事例名 『学校は面白いところ！ ～仲間づくりを充実させて～』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

「気付く力」・・・友達の頑張りやよさを見つけることができる。  
 「挑戦する力」・・・物事に対してねばり強く前向きに取り組むことができる。

取組のねらい

異学年による縦割り班活動や清掃活動を通して，友達同士のつながりを大切にする共感的な人間関係形成能力と自分の気持ちをコントロールする自己管理能力を育てる。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

【縦割り班について】

- ・1～6年生を32班に分け，13～14人の縦割り班を作る。
- ・縦割り班の名称を「なかよし班」とする。

【縦割り班活動】

- ・各学期に1～2回程度，児童会が中心となり班で一緒に遊ぶ企画・運営をする。
- ・1学期に知り合う，2・3学期に交流を深めるようにする。



【ピカピカクリーン活動・掃除マイスター】

- ・学期に一度，4日間の掃除時間を取り組みの期間として，班と個人を表彰する。
- ・掃除の終わりに，リーダーは班のメンバーを集め，掃除の反省をする。
- ・「無言で・隅々まで」掃除ができていのかどうか，振り返りの視点に沿って教師評価を行い，よく頑張っている班と個人にシールを渡す。



- ・児童会の発案により，縦割り班の名称を親しみやすいものとする。

- ・コロナ禍の制約の中で，校内と運動場を使ってゲームを仕組み，互いの意外な一面を知ることにつながる。

- ・玄関に表を掲示し，見える化を図る。



- ・児童の頑張ろうとする意欲を励ますために，積極的にシールを渡すようにする。
- ・「気付く力」育成のため，シールを渡す際，よいところを声かけする。

取組の成果と課題

○成果としては，指導者の肌感覚としても，昨年度よりも掃除を一生懸命にできる児童が増えたことである。特に，ピカピカクリーン活動・掃除マイスターの取組は，児童の意欲を高めることに効果的だったと思われる。（「挑戦する力」に関わる児童自己評価：7月91.9% 12月89.5%）

○課題としては，班のメンバーのよさに気付いて，互いに認め合うところまではできていないことである。制限もある中なので，縦割り班で遊ぶ機会をあまり多くもてず，遊びの種類等も限定された。また，児童がメンバーの頑張りやよさに目を向けられるように指導者がなかなかできていなかった。来年度は，「気付く力」を育てることを意識した活動や見つけた頑張りやよさを交流する活動を仕組む必要がある。（「気付く力」に関わる児童自己評価：7月82.0% 12月78.4%）

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校  
「指定校における取組事例」

学校名	三次市立三次小学校	校長	中田 弘幸	担当者名	吉羽 芳晴
-----	-----------	----	-------	------	-------

**取組事例名** 『授業観察交流』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通した絆づくり
---	----------------	------------------------------	----------------

**取組における育てたい資質・能力**

根気強く取り組む力，伝え合う力(コミュニケーション能力)，自己肯定感の向上

**取組のねらい**

学習に意欲的に取り組めない児童の指導に悩む教職員がいる中，教職員同士の授業交流を計画的に行うことで，学級づくりや指導の工夫について学び合い，児童の自己肯定感を向上させ，学習に粘り強く取り組める授業づくりにつなげる。

**取組の具体的内容**

**取組の創意工夫**

○専科の授業時間等を利用して，同学年・他学年の授業観察を行う。  
特別支援学級の担任が，交流学級や交流学級以外の授業参観を行う。  
※通常の学級の担任は3回のうち1回は，特別支援学級を参観する時間とする。

<実施までの流れ>  
○本来なら，研究授業等で他の教員の授業を参観することで，授業での指導技術や児童への関わり方・見とり方を学び合うのだが，本年度はコロナ禍のため，その機会が減少。

○第1回(9月14日～9月30日)  
・同学年学級を見合う。  
・1学年は2学年の授業を，5学年は6学年の授業を参観する。  
・特別支援学級の担任は，互いに授業を参観し合う。

↓  
○学校を巡回している際に，学年間での指導に差ができていたように感じた。

○第2回(11月9日～11月20日)  
・低学年・中学年・高学年で見合う。  
・1学年は3学年の授業を，5学年は4学年の授業を参観する。  
・特別支援学級の担任は，児童が交流学級で行く学年以外を参観する。

↓  
○研究主任と相談。授業改善の視点からも学ぶ場の必要性を感じて『授業観察交流』を計画。

○第3回(1月14日～1月25日)  
・1・2・3学年は4・5・6学年を，4・5・6学年は1・2・3学年を参観する。  
・特別支援学級の担任は，児童が交流学級で行く学年以外を参観する。

↓  
○どのような体制が必要か，他の教職員とも相談。

※4・5・6学年は，1・2・3学年でどのような学習規律を身に付けているのかを確認し，それを踏まえたうえで，高学年としての指導を見直す。  
※1・2・3学年は，4・5・6学年を見て，その学年までにどんな力を身に付けなければならないかを確認し，そのための低学年での指導を見直す。

↓  
○『授業観察交流』の実施。

【授業参観の視点として】  
・児童の見取り方 ・肯定的な声かけ  
・児童が語る場づくり ・問題提示の工夫  
・座席の工夫  
・学習に根気強く取り組めるようなねらいの明確化 など  
○普段の授業のみを考えるならば，同学年もしくは近い学年を見に行くだけで十分と思われるが，小学校6年間通しての指導や特別支援教育の視点を持つため，様々な学級を参観する機会を設けた。

**取組の成果と課題**

<職員アンケートより>  
・職員アンケートより『授業観察交流』の実施に対する肯定的評価は86.5%だった。(学習指導については91%，生徒指導については82%)  
○授業観察交流により児童の自己肯定感等を向上させるための手立てを共有することができた。共有した手立てを教職員が実践することで児童に寄り添った指導ができた。その結果，児童が集中したり，粘り強く取り組もうとしたりする姿が見られた。  
○異学年との学習のつながりを意識することができた。  
●1～3学年は空き時間が少ないので，時間を確保してほしい。  
●授業だけでなく，研修などで教室環境や掲示物などの実践交流もしてみたい。

<全体の振り返りとして>  
○お互いの授業を参観して学び合う機会の確保ができた。  
○決まった期間内だけでなく，自主的に他の学級へ参観する教員もいた。授業観察交流が教員間の学び合いの動機付けにつながった。  
●教員が参観するための空き時間の確保が難しい。専科の授業等を利用したが，低学年の教員の時間の確保が厳しかった。また，特別支援学級の担任は，児童全員が交流に行くという時間がなく，空き時間の確保が特に難しかった。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校長	古本 宗久	担当者名	沖村 祐樹
取組事例名		『組織的な生徒指導体制』			
○	生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話		主体的な活動を通じた絆づくり
<b>取組における育てたい資質・能力</b>					
・自ら考え，自ら行動できる力					
<b>取組のねらい</b>					
・積極的に関係機関と連携を図ることを通して，専門的な立場からの助言を得る。 ・多角的・多面的に児童理解を行う。					
<b>取組の具体的内容</b>			<b>取組の創意工夫</b>		
<p>○複数の教職員による児童対応 ⇒気になる児童に対して，担任以外の教職員も積極的に関わることを教職員間で確認した。 ⇒気になる児童が教室へ位置付けない際，「どこで」「だれが」「何をさせるのか」を事前に協議した。 ⇒基準を明確化し，どの教職員も同じ対応ができるようにした。 【例】授業時間に遅れたら職員室で指導を受けてから教室に戻る。 →職員室に管理職や生徒指導主事が不在の時でも，児童への指導を行うことができる。</p>			<p>○気になる児童の担任と管理職，生徒指導主事，学校支援員等で日頃から情報共有を図り，児童実態を把握した。 ○保護者連携を図る際，担任からだけでなく管理職や生徒指導主事からも連絡を行った。</p>		
<p>○スクールカウンセラー・家庭教育支援アドバイザーとの積極的な連携 ⇒スクールカウンセラーが授業観察をし，専門的な立場から見立てをしてもらった。 ⇒家庭教育支援アドバイザーが気になる児童の保護者と面談を行い，保護者の悩みを聞いたり家庭での児童の接し方についてアドバイスしたりした。</p>			<p>○スクールカウンセラーや家庭教育支援アドバイザーの来校日を，毎月の学校だよりや生徒指導だよりへ掲載し，保護者へ通知した。 ○気になる児童の保護者と担任が連携する際に，困り感をもっておられる保護者に対して，スクールカウンセラーや家庭教育支援アドバイザーへの相談を積極的に促した。</p>		
<b>取組の成果と課題</b>					
<p>○家庭教育支援アドバイザーによる保護者面談の件数が増えた。また，同じ保護者と家庭教育支援アドバイザーが継続的に面談を行っており，保護者の思いに寄り添った対応を行うことができた。 令和元年度（1月末時点）4件 → 令和2年度（1月末時点）14件</p> <p>○教室へ位置付けない児童と別室で学習したり日常的な会話をしたりすることで，教室内では見せない言動が表出するなど，児童の実態をつかむことができた。</p> <p>○多面的・多角的に児童理解を行ったことで，気になる児童が落ち着いて過ごせるようになってきた。</p> <p>●複数体制での児童対応を行えているものの，特別な指導の件数はあまり減少していない。特に，「時間に遅れる」「授業妨害」「授業エスケープ」等に対する指導内容が多くなっている。 令和元年度（1月末時点）75件 → 令和2年度（1月末時点）74件</p>					



令和2年度生徒指導集中対策、生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	福山市立幸千中学校	校長	藤井 護	担当者名	伊藤 直也
-----	-----------	----	------	------	-------

取組事例名 『KOSEN CHANGE PROJECT!』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

- ・集団や周囲の人に対して、思いやりをもって行動し、相手の立場や考えを想像し、他者を気遣える力。  
【幸千中学校区 21世紀型“スキル&倫理観”】

取組のねらい

- ・生徒主体の話し合い活動を通して、「人を大切にすることは？」「人を大切にするために必要なルールとは？」について考え、望ましい人間関係を形成し、よりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。
- ・居場所づくり・絆づくりを進め、授業での学び合いの基盤づくりとする。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

STEP① 学級委員会（1・2年）

『KOSEN CHANGE PROJECT!』の目的を共有するため、学級委員会でデモ授業を実施。



話し合いのルール

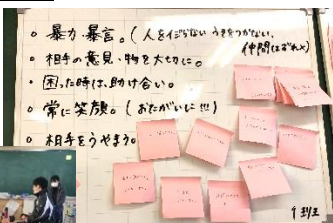
- ・なんでも言ってみる!
- ・他人の意見を否定しない!
- ・自分の意見を否定しない!
- ・常に考え続けること!

STEP② 『人を大切にすることは?』

テーマについて、各クラスで意見を出し合ってまとめる。

STEP③ 『人を大切にするために必要なルールとは?』

STEP②でまとめたことを柱に、具体的にはどんなルールが必要か、意見を出し合う。さらに、話し合った内容をもとに、生徒指導規程について協議する。



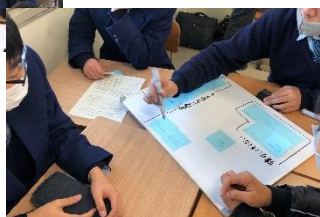
STEP④ 学級委員会（1・2年）

STEP②・③での各クラスの意見を集約し、学級委員会と生徒会執行部で共有する。



STEP⑤ 生徒会執行部

全体の意見をもとに、生徒会執行部でどんなルールが必要か意見を出し合い、生徒指導規程の見直しを進めている。



- 取組の中心となる STEP ②③に向けて学級委員会を開催し、目的の共通理解を図り、取組を進めた。
- 話し合いのルールを全員で共有し、何でもいえる雰囲気づくりを行った。
- STEP②「人を大切することは？」を設定することで、STEP③では、自分たちの学校に必要なルールに焦点化して考えられた。
- STEP④・⑤では、集約した意見の実現に向けて、生徒会執行部が具体案を考えている。
- 各クラスから出た意見は、生徒による取組だけでなく、教員の学級経営等にも生かす。

取組の成果と課題

- 振り返りアンケートにおいて、課題について仲間と話し合いをして解決することへの意欲が高まった生徒の割合が、85%であった。
- 学級委員がファシリテーターとなって話し合い活動を進め、生徒が討論したり、相互の意見をつなげて考えを広げたりする等の主体的な姿が見られた。
- 生徒アンケートにおいて「自分の考えが認められている」と肯定的に回答した生徒の割合は、84%であった。今後も他者との関わりの中でお互いを評価し、認め合う場を充実させていく。
- 生徒主体で考えたことを実現する過程を経験することで、生徒自身が学校づくりに参画した実感を持ち、自己有用感を高めることにつながる取組とする。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	福山市立培遠中学校	校長	村上 啓二	担当者名	酒井 盛浩
-----	-----------	----	-------	------	-------

取組事例名 『 アンケート等にもとづいた個々の生徒に寄り添う指導 』

生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	---	------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

- ①日々の生活を振り返り，目標や進路に向かう態度を持つ。〈課題発見・解決力〉
- ②自分の考えや思いを，的確な表現で伝えることができる。〈コミュニケーション能力〉

取組のねらい

アンケート等により，個と集団の状況を把握，分析し，それをもとに個人面談を行うことで，生徒一人一人について，学校，家庭で抱えている思いや課題を明らかにする。個々に寄り添った相談等で夢や目標への見通しを持たせ，前向きに学校生活を送ることができるよう支援する。

取組の具体的内容

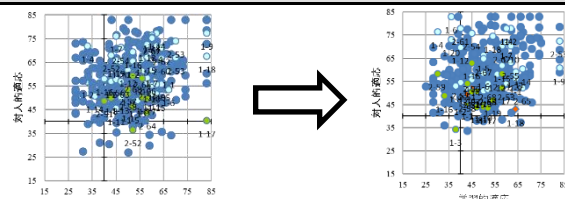
取組の創意工夫

- 1 様々な視点からのアンケート実施
  - (1) 生活アンケート  
感染症に係る休業明けや学期末に，家庭での生活状況や登校不安等についてのアンケートを実施。
  - (2) 学校環境適応感尺度「アセス」  
生徒の学校生活適応感をもとに，人間関係や学習適応の状況を把握，分析する。
  - (3) いじめアンケート  
定期的に実施にし，生徒の状況を把握する。
- 2 アンケートを効果的に活用するための研修
  - (1) 「生徒の置かれている環境について」  
スクールカウンセラーを講師として，発達障害等の生徒個々の特性について研修を行う。
  - (2) 学校環境適応感尺度「アセス」の見方  
「アセス」の読み取りと分析の方法を研修し，個々の生徒の状況分析及び今後の取組の方向性の検討を行う。
- 3 生徒面談の実施  
生徒の希望をもとに面談する教職員を調整して，面談を実施した。

- 1
  - (1) 新年度開始後，約1カ月の休業期間があったため，インターネットを活用し，家庭や学校での生活不安等に焦点を置いたアンケートを実施した。
  - (2) 学校生活への適応感が低い生徒等を情報共有し，支援内容や方法を検討した。
- 2
  - (2) 実際の生徒一人一人について，アセスの結果について具体的な分析を行い，その内容を元に，どのような支援が効果的か等について考えた。
- 3 学年始めに休業となったため，担任との人間関係が十分に構築されていない場合も鑑み，可能な限り生徒が希望する教職員と面談できるようにした。

取組の成果と課題

○ 教職員は，個の状況を的確に見取り支援を進めることの重要性を感じ，一人一人の生徒に，よりきめ細やかな対応を進めた。結果として，「アセス」では，対人的適応尺度の指数が全体的に上がる結果となった（右図）。



● コロナ禍で個の生徒に対する取組が進む半面，集団育成への取組が十分に進められなかった。個と集団への取組を，より効果的に進められるよう整理し，生徒が成長できるように取組を続けていく。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	竹原市立竹原中学校	校長	東 秀樹	担当者名	久保田 慎也
-----	-----------	----	------	------	--------

取組事例名 『立腰—重点指導項目の設定—』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通した絆づくり
---	----------------	----------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

- 協働力…互いを認め合い，同じ目的や目標に向かって取り組む態度。
- 主体性…目的に沿って，自分の意志で行動できる態度。

取組のねらい

- 姿勢を正し，黙想する活動を通して規律ある授業づくりを目指す。
- 学級全体が立腰をすることで，お互いが尊重しあえる雰囲気醸成する。

取組の具体的内容	取組の創意工夫
<p>① チャイムが鳴ってから，担当生徒が「生徒，立腰」と号令をかける。</p> <p>② 生徒は，目を閉じ，腰を立て，手を膝に置くなどして姿勢を正す。</p> <p>③ 1分経過した後，教員が「始めます。礼」と声をかける。</p> <p>④ 生徒は「お願いします。」と言った後，礼をする。</p> <p>* 授業終了時は①・②については開始時と同様。時間設定はせず，全体の動きが止まったら，教員の合図の後，「ありがとうございました」と言い，礼をする。</p> <p>* 全校集会などにおいても立腰を行う。</p>	<p>立腰の取組みを開始して3年目になる。これは本校のみならず，竹原中学校区内の小学校でも同様の取組を行っている。今年度は小中一貫の取組方針で，これまでの取組の中でも，特に「挨拶」「礼」の徹底を図った。</p> <p>本校においては「挨拶」「礼」に対する強化週間を設けて，生徒に注意喚起を行うとともに，生徒指導部会において教職員が足並みを揃えて生徒に指導，評価を行うようにした。</p> <p>また生徒会とも連携し，生徒会独自の「立腰強化週間」を設けたり，3年生から1，2年生へ立腰のアドバイスを送ったりする活動を行った。</p>

取組の成果と課題

「挨拶」「礼」に関する強化週間を設けたことで，生徒の意識の向上を図ることができた。2月の生徒アンケートでは，「立腰」と「挨拶」を意識して授業に取り組めた生徒の割合が90%，教職員が89%であった。学校全体としては，概ね達成できたと言える。しかし，学年によって達成度の差があり，高い学年と低い学年では10ポイントの差があるため，立腰以外の場面で，礼儀やマナーに関する指導や取組，または生徒自身に立腰の必要性を感じさせるようにする必要がある。

小中一貫の取組みとして始めた「立腰」も今年で3年を迎えたが，来年も継続する方向で考えている。来年度は今年取組に，新たな重点項目を設定する予定である。マンネリ化を避けるとともに，生徒に必要な力を付けるため，小中一貫で現状を踏まえながら課題を設定していきたい。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	大竹市立大竹中学校	校長	十亀 琢磨	担当者名	井手 正典
-----	-----------	----	-------	------	-------

取組事例名 『生徒指導対策委員会』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
---	----------------	----------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

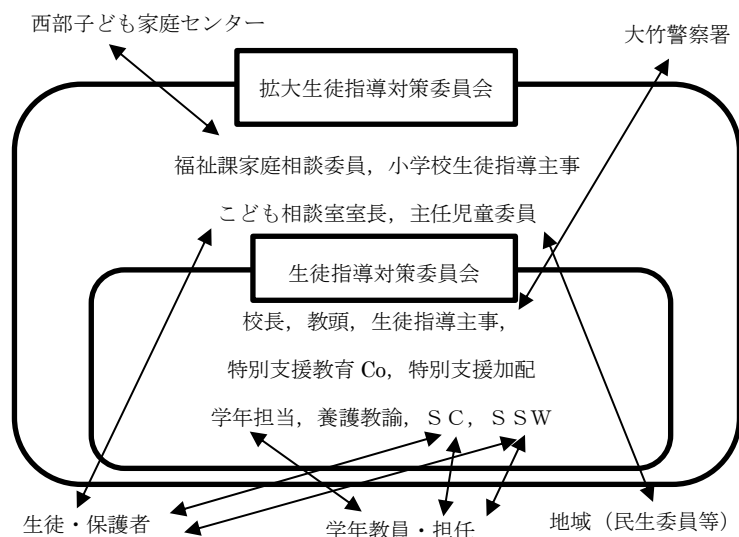
夢や志を持ち，粘り強く努力をする生徒を育成するために，「自らへの理解と自信」，「チャレンジ精神」といった資質・能力を育てる。

取組のねらい

生徒の自立に向けた歩みを支えるため，地域とともにある学校づくりなどを通じて，家庭・地域の教育力を充実させ，地域ぐるみで生徒の健全育成を推進する。

取組の具体的内容

週1回の生徒指導対策委員会と月1回の拡大生徒指導対策委員会等で，関係機関等と連携を図りながら，生徒指導上の諸問題等の未然防止や解決に向けて協議を進めることで，それぞれの生徒に対する具体的な方策を共通認識して，指導の徹底を図る。また，特別支援教育Coとの連携を密にし，生徒指導と特別支援教育の両方の視点で，指導の充実を図る。



取組の創意工夫

- ・月に1回関係機関の職員の方に参加していただくことで，更に他の関係機関との連携が図りやすくなる。
- ・小中連携やSSWとの連携により，小学校の時から本人の様子や家庭環境などの不登校生徒の情報を共有することで，組織的に対応する。
- ・学校に来ることができない生徒に対して，こども相談室と連携を図り，居場所づくりをする。
- ・こども相談室や福祉課と繋がることで，卒業後の生徒たちの支援を充実させる。

取組の成果と課題

福祉課が関わった生徒12名（そのうち家庭センター連携した生徒5名），SSWが校外で関わった生徒10名（小学校時から関わっている生徒6名），SCが関わった生徒11名（保護者を除く），こども相談室に通室した生徒6名（学校に復帰した生徒2名），主任児童委員から具体的な情報の提供を受けた生徒3名，小学校の生徒指導主事から兄弟の情報の提供を受けた生徒8名と毎月多くの情報を共有することで，それぞれの生徒に対して教員だけの取組以上のことができた。特に不登校傾向の生徒たちや家庭的にしんどい生徒たちへの支援ができた。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	東広島市立向陽中学校	校長	脇坂 治海	担当者名	二川 義美
-----	------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『 チーム向陽 ～ 絆 ～ 』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

- ・主体的に学び考え行う力
- ・自己存在感と共感的人間関係づくり

取組のねらい

- ・誇れる向陽中学校にするために，仲間との絆を深め学校生活をよりよくし，自ら考え行動する力を身につけさせる。
- ・行事等の活動をすることや内容を知ることを通して，活動の意味・活動に関わる人の思い・自らの行動の在り方を考えさせる。

取組の具体的内容

- ・コロナに負けるな  
コロナ休業だからこそできたこと，心の支えになったことを全校生徒で共有する。



- ・体育大会の生徒会による解団式 感謝の拍手  
みんなのために体育大会を成功させようがんばってくれた人に拍手を送ることを通して，見えないところで努力してくれたことへの感謝の気持ちと仲間との絆を深める。

- ・校舎の大規模改修工事終了に際し，お礼の会  
校舎の大規模改修に関わっていただいた工事関係者の方を招き，感謝のメッセージボードを贈るとともに生徒全員で感謝の気持ちを伝え，全面改修された新しい校舎を自分たちのためにも大切にきれいに使っていき気持ちを高める。

- ・友達のいいところ探し（いじめ防止対策の取り組み）  
生徒会新聞により普段感じている友達の良さを伝えるメッセージを募集し，メッセージを共有することで仲間との絆を深める。また，仲間からのメッセージを知ることで自己への自信を深める。



- ・「先輩おしえて」  
向陽中学校校区の各小学校の6年生が中学校に進学するにあたり，中学校のことについて聞いてみたいことや知りたいことについて事前にアンケートを行い，小学校からの質問形式でリモート会議を行う。

取組の創意工夫

- ・休業という苦しい時期だからこそ，目標を持ち活動していた仲間のことを知ることで，その活動に共感するとともに次への主体的な行動につなげるように考えさせた。

- ・体育大会を個人やクラスで頑張り楽しむだけでなく，体育大会を行うことができた背景に目を向けさせ，それぞれの仕事をやり切った責任感や仲間が支えてくれていることを感じることで絆について考えさせた。

- ・多くの人の思いや努力で自分たちが快適な環境で学習できることを理解し，学校だけでなく社会ともつながっていることを理解させ，感謝の気持ちとその校舎を大切に，未来につなげていく気持ちを高めさせた。

- ・掲示の仕方を工夫し，一人一人を大切にするという向陽中の思いが一つであることを感じられるように工夫した。



- ・安心して向陽中学校に来てほしいという気持ちをこめ，一つ一つの質問に対して丁寧に答える。


取組の成果と課題

- ・コロナ禍の中，いつも行われてきたことが当たり前のことではなく，いろいろな人の思いで活動できていたことに気づくことができた。また，行事等に関わってくださった人への感謝する気持ちを持ち，感謝の気持ちを言葉で伝えようとする気持ちが高まった。

- ・生徒会が生徒の思いを引き出し，向陽中の絆を深めることができた。しかし，生徒会は主体的に活動していく力がついたが，生徒全体が主体的に活動することにつながりにくいことがあった。さらに工夫し，生徒全体が主体的に活動する場面をつくる必要がある。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	熊野町立熊野中学校	校長	坂口 直美	担当者名	平岡 健太朗
取組事例名		『伝統を守り，創造する』			
生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり	
取組における育てたい資質・能力					
○主体性    ○責任感    ○リーダーシップ					
取組のねらい					
<p>今年度は，体育祭，文化祭などのあらゆる行事が中止となり，活躍の場を失った生徒が多い。また，全校が一堂に会するという機会を作ることもできなかつたため，1年生にとっては先輩たちの姿を見て学ぶという機会が激減した。そんな中でも，上級生が先輩らしい姿を後輩らに示す機会をつくることで，良い伝統を引き継ぐとともに，責任感や有用感，自己肯定感を育むことをねらいとした。</p>					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>(1) 第18代「組曲」の発表 -10月30日(金) - 18年間受け継がれてきた「組曲」を今年度も発表した。「密集」を避けなければならない状況での練習と発表は，大変困難であったが，生徒らの前向きな姿勢と教職員の創意工夫により，成し遂げることができた。</p> <p>(2) 3年生クラスマッチの実施 - 11月27日(金) - 体育祭の中止を受け，実施することになった。企画・運営は，クラスマッチ実行委員会9名の生徒が中心で，種目やルールについても，生徒らが考えた。2週間程度の取組であったが，「より体育祭らしいもの」を目指して作り上げ，保護者にも生き生きとした姿を見ていただいた。</p> <p>(3) 規則の見直し - 9月28日(月)～10月9日(金) - 本校にはこれまで，衣替えの季節の「合い服」が存在しなかった。そこで，生活委員会と3年生の生徒らが意見を出し合い，「合い服のルール」をつくることにした。自分たちが過ごしやすいということだけでなく，統一感があり，印象が良く見えるのはどんな組み合わせかを考え，提案した。新たに，生徒指導規程に加わった。</p> <p>(4) 清掃見学 - 6月22日(月)～24日(水) - 本校では，数年前から「清掃」(見えないところまできれいにする)と「掃ベル」(清掃しながら始まりのベルを聞く)の2つに取り組んでいる。そこで，1年生による3年生の清掃見学を実施した。高いレベルの清掃を学んだ。</p>			<p>1年生と，1・2年生の保護者に対しては，本番の様子をリモートで中継した。</p> <p>生徒の主体性を尊重し，「コロナ禍でも安全に実施できる種目・ルール」を考えさせた。</p> <p>話合いだけでなく，『合い服』お試しの日」を設定。その日は，それぞれが考える制服の組み合わせで過ごし，意見交換をした。</p> <p>翌週には，3年生による1年生の清掃見学を実施。学んだことの成果を3年生に披露した。</p>		
取組の成果と課題					
<p>「組曲」とクラスマッチについては，保護者や地域からも開催を喜ぶ声や感動したという感想を多くいただいた。生徒らにとっては，「やり切った」「楽しかった」というだけでなく，「保護者や地域に喜んでもらえた」「頑張りが認められた」などの感想があり，一人一人にとって大きな励みになったようである。</p> <p>規則の見直しについては，生活委員長の「本当にこんなことができるんですね」という言葉が印象的であった。</p>					

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田中学校	校長	松本 貴文	担当者名	相田 健太郎
-----	-------------	----	-------	------	--------

取組事例名 『体育祭 全員参加による「応援ダンス」の取組』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

○他者と協働して，自分たちの生活をより良くするための課題を解決する力（課題解決能力・自治的能力）

取組のねらい

○自分たちの学校行事を自分たちの手でつくり上げる活動を通して，学級・学校生活への参画意識を高めさせるとともに，仲間と協力して課題を解決する力を身に付けさせる。  
○一人一人に役割を果たさせることを通して，達成感や自己肯定感をもたせる。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

体育祭で全員参加による「応援ダンス」を実施  
○体育祭（9月実施）において，これまでは有志生徒による応援団のみが演技していた応援合戦を，生徒全員参加の「応援ダンス」に変更し，全校で取り組んだ。  
・今年度，感染症対策で体育祭のプログラムを縮小・変更する必要が生じた。生徒一人一人の出場種目が減り，仲間とつながる種目の実施が困難な中，実行委員会で検討を重ね，「吉田中から地域に元気を発信しよう」を合言葉に，全員参加の応援ダンスを実施することにした。  
・3学年縦割り赤・白・青の3チームを編成し，夏季休業中，3年生を中心に各チームで，「密を避けつつみんなで楽しめるものにする」「吉中から地域へのメッセージを表現すること」という二つのテーマに沿って，オリジナルのダンスを創作した。  
・練習は，3年生が下級生の学年リーダーにダンスを指導し，学年練習⇒全体練習という流れで練習を行った。  
・当日は，多くの来校者の前で，どのチームも元気いっぱいの演技を披露し，盛大な拍手を受けることができた。



・コロナ禍の中で，どのような体育祭にしたいのか，どのような形なら実施できるのか，生徒会執行部で話し合う場を設定した。  
・はじめに「コロナ禍の中，がんばっている自分たち，保護者や地域の方たちに元気を与えるメッセージを発信する」という目的を確認させ，取り組む中で常にそのことを意識させるようにした。  
・生徒会が「極限 ～力の限り～」というスローガンを掲げ，生徒朝会などで呼びかける等，困難な状況の中でも，みんなで最高のものをつくり上げようという機運を高めるよう取り組ませた。  
・応援ダンスの構想段階から，できるだけ生徒たちの手に委ね，指導者はその支援に徹するよう心がけた。  
・保護者にも審査をお願いするなど，外部からも自分たちの頑張りが評価され，達成感や自己肯定感を得られるよう工夫した。

取組の成果と課題

○はじめは，これまでの「応援合戦」のイメージが強すぎて，新しい取組に前向きになれない生徒も見られたが，活動が軌道に乗ってからはどのチームも非常に意欲的に取り組むことができた。多くの生徒から「はじめは不安だったが，みんなでやりきることができてよかった」といった声が聞かれた。  
○2学期に実施した生徒アンケートの「自分のよさはまわりの人から認められていると思います」という問いに対して 82.3%の生徒が肯定的な回答をしている（1学期は 77.0%）。学校全体として自己肯定感が高まっていることがうかがえる。





令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	尾道市立向東中学校	校長	吉用 和弘	担当者名	瀧奥 恵二
-----	-----------	----	-------	------	-------

取組事例名 『レジリエンス（心の回復力）の育成』

生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	---	------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

「主体性・積極性」「協働する力」「論理的思考力」

取組のねらい

- ・困難な状況においても、他者を思いやり夢や目標に向かって挑戦することができる生徒を育成すること。
- ・レジリエンス（心の回復力）の中でも、特に「挑戦する意欲」を向上させること。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

- ①レジリエンスに関わる研修  
(生徒の実態把握及び教職員の意識統一)
- ②行事の実施  
・校内球技大会・文化祭(全校合唱・クラス対抗合唱コンクール)・部活動対抗駅伝などを通じて3年生や各学年のリーダーをロールモデルとして育てた。
- ③ありがとうカードを作成し、学年を問わず仲間を認めるようなメッセージを発信した。
- ④レジリエンス通信を発行し生徒・保護者への周知を行った。



カウンセリング・マインドを活用した生徒との面談

- ・面接ウィークを設定し、生徒の頑張りを認め、悩みを共有する中で肯定的な対話を行う。
- ・アンケートや生活ノート(本校ではタイムくん)から得た情報を基に、迅速な面談を実施する。
- ・SCやSSWとも連携した生徒指導。(SSWによるSSTの実施, SCによる全員面談やストレスマネジメントの授業)

取組の成果と課題

レジリエンスアンケートの変容

挑戦する意欲の項目(私は難しい状況から立ち直ることができる)

学年	4月	7月	1月
1年	67.5%	64.0%	68.5%
2年	70.0%	80.7%	67.2%
3年	67.5%	73.1%	84.8%
全体	67.5%	73.0%	74.2%



○コロナ禍だからできないのではなく、どのような形であれば行うことができるのかを生徒と教師との対話の中で導きだし、実行することで挑戦する意欲を高め、達成感や充実感を共有することができた。

○日常からレジリエンスのアンケートだけではなく、各種のアンケートや生活ノートから担任を中心とした面談を状況に応じて行い、クイックミーティングなどで情報を共有することで多くの教職員が生徒との関わりを持つことができた。

▼教職員のカウンセリング技能を向上させていくことで、生徒との対話をより良いものにしていく。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	三次市立三次中学校	校長	池田 誠	担当者名	河内 哲志
-----	-----------	----	------	------	-------

取組事例名 『 きらり三次中 』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

- 学校行事や学級活動に主体的に取り組める力
- 相互理解，相互評価ができる力

取組のねらい

- 生徒会の自治活動を通して，生徒自身が考え企画しながらよりよい学校及び学級環境を創る取組を進めることで，生徒の達成感や生活意欲の向上につなげ，物事に主体的に取り組める力の育成を図る。
- 仲間からの肯定的なメッセージを共有することで，相互理解・相互評価ができる力を育成するとともに，生徒の自己肯定感，自己存在感，自己有用感の向上を図る。

取組の具体的内容

- 学級委員会による「きらり三次中」の計画・立案・運営
- 掲示物の作成，準備
- 学級委員会による各学級への取組の目的及び内容の説明
- 「きらり三次中」の取組の実施



- 学級委員会による生徒朝会でのメッセージの紹介

取組の創意工夫

- 学級委員長が生徒朝会で呼びかけ，その後，各クラスで学級委員が取組への協力を募ることで，担当委員としての自覚を持たせた。
- 名前を挙げながら（本人には事前に確認）他者評価をすることで，取組のねらいの達成にせまった。
- 生徒朝会等で中間評価や振り返りを行うことで取組の活性化及び改善へつなげた。

取組の成果と課題

【成果】

・【学校生活アンケートより】

項目	第1回	第2回	差
生徒会活動や学校行事に積極的だ	77.7%	87.8%	+10.1%

・【総合質問紙調査 i-check より】

項目	第1回	第2回	差
自分には，いいところがあると思いますか	65.1%	69.0%	+3.9%

- ・上記アンケート結果から，生徒の主体性，相互理解，相互評価ができる力及び自己肯定感の向上につながったと考えられる。

【課題】

- ・生徒全員分のメッセージが掲示されているわけではなく，寂しい思いをした生徒がいることも考えられる。それらの生徒への心のケアや，生徒全員に対して肯定的なメッセージが掲示されるよう取組方の工夫が必要である。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	三次市立十日市中学校	校長	迫田 隆範	担当者名	政倉 悠治
-----	------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『学び方を学び，自分の学び方のヒントを見つけよう』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

- 主体性
- コミュニケーション能力

取組のねらい

- ・自分から進んで学ぼうとする態度を身に付けさせることをねらいとし，自主学习ノートを持ち寄り，工夫点を紹介したり，他の人の工夫を知ったりすることで，自己の学び方を振り返りこれからの学び方を考えさせる。
- ・特に3年生にはリーダーとしての自覚をもち集団を引っ張ったりまとめたりする力を付けさせることをねらいとし，司会や計時，話し合いをコーディネートする役割等を任せ，自己を見つめる機会とする。

取組の具体的内容

- ①自主学习ノート「一押しページ」を紹介しよう。
  - ・心がけていること，一押しの理由，工夫点などを話しながら紹介する。
- ②グループの人の自主学习ノートのよさを見つけよう。
  - ・よさ，アドバイスなどを付箋に書いて張り付ける。
- ③意見交流をしよう。
  - ・今回交流してみて感じたことや学習に関わって，工夫していること，困っていることなどを交流する。先輩に質問をしてもよい。
- ④今日の学習のまとめと振り返りをしよう。



取組の創意工夫

- ・3年生が司会進行を行い，生徒だけで授業を進めるようにした。
- ・KJ法を用いることにより，意見交流がしやすくなり，全員が交流に参加することができた。
- ・縦割りのグループで交流を行った。このグループを1年間通して変えないことで，異年齢での活動における意見交流が活発になった。

取組の成果と課題

7月と11月にアンケートを行い，「日常生活の中で自分の思いや考えを積極的に話している」の項目が全学年で肯定的な回答が増加した。異年齢交流の活動を通して，自分の考えや思いを伝えることで安心して話せる機会が増えたと考えられる。また，「授業でみんなで考えることで一人で考えるより考えが深まる」の項目については全学年減少している。協同学習を行う際に，自分の考えや思いを伝えることはできているが，聞いて考えが深まっていない生徒がいることが課題である。人の考えを聞くときの視点を与えるなどの工夫が必要であると考えられる。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	府中市立府中学園	校長	池田 哲哉	担当者名	上 勿 亨
取組事例名		『心を密にする掲示板』			
生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通した絆づくり	
<b>取組における育てたい資質・能力</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力</li> <li>・共生的な態度</li> </ul>					
<b>取組のねらい</b>					
<p>臨時休業明けの登校に向けて不安な気持ちを抱えていることが考えられるため，児童生徒同士が交流できる場を設定することで，気持ちを和らげてスムーズな登校につなげる。</p> <p>自らの思いを発信するとともに，クラスメイトと協同した取組を行うことで，児童生徒同士のつながりを深める。</p>					
<b>取組の具体的内容</b>			<b>取組の創意工夫</b>		
<p>各学年の発達段階に応じて，交流の場を設定した。ここでは7年生の取組を紹介する。</p> <p>写真のような「LINE」をイメージした模造紙を用意した。最初のお題を担当が提示し，朝学活の時間にAグループの生徒が付箋で返事を書いた。帰り学活の時間に，AグループがBグループに対してのお題を考えて提示し，Bグループの生徒が付箋で返事を書いた。</p> <p>このやりとりを繰り返し行いながら，臨時休業中の様子や気持ちについて交流を深めた。</p>					
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員がコメントを書く。 (自己決定の場を与える)</li> <li>・全員のコメントを掲示する。 (自己存在感を与える)</li> <li>・クラスメイトの考えを見た上で，相手グループへのお題を考える。 (共感的人間関係の育成)</li> <li>・教員の手立てとして，マイナス方向に向くようなお題にならないように留意した。</li> </ul>		
<b>取組の成果と課題</b>					
<p>7年生へアンケートを行った結果，【取組をしたおかげで，登校しやすかった】という質問に肯定的に答えた生徒が80%いた。理由としては，「次はどんな話題にしようかな。」「どんな返事が返ってきているかな。」など楽しみが増えたという意見があった。否定的に答えた生徒の意見としては，「この取組がなくても登校しやすかった。」という意見があった。【取組をしないより，した方が良かったと思う】という質問に肯定的に答えた生徒が88%いた。理由としては，「共通の話題があることで，登校して話しかける際の話題にすることができた。」という意見があった。</p> <p>この取組を通して，児童生徒同士の交流を深めるだけでなく，教員も臨時休業中の児童生徒の様子を知ることができ，児童生徒理解を深めることができた。</p>					